

第 35 回 インフルエンザ研究者交流の会シンポジウム プログラム



新潟大学医学部正門（赤門）



新潟大学医歯学総合病院

会 期：2022年7月7日(木)～8日(金)

開催形式：Web 開催（本部：新潟大学大学院医歯学総合研究科）

会 長：齋藤 玲子

（新潟大学大学院・医歯学総合研究科・国際保健学分野・教授）

第35回
インフルエンザ研究者交流の会
シンポジウム

35th The Japanese Society for the Control
of Influenza Symposium

第35回インフルエンザ研究者交流の会シンポジウム事務局

〒951-8510 新潟市中央区旭町通1-757
新潟大学大学院・医歯学総合研究科 国際保健学分野内
TEL : 025-227-2127 FAX : 025-227-0765
E-mail : influenza35@med.niigata-u.ac.jp

表紙の説明

1

1 新潟大学医学部の正門（赤門）

明治43（1910）年に設立された官立新潟医学専門学校の正門として大正3（1914）年に建てられた由緒あるレンガ造りの門で、国の登録有形文化財に指定されています。これは新潟大学学長の牛木辰男教授（解剖学・組織学）がスケッチされたもので、ご厚意により掲載させていただきました。

2

2 新潟大学医歯学総合病院の空撮全景

37の診療科と病床数827を備えた、新潟県の3次医療圏を支える特定機能病院です。（新潟大学医学部提供）

参加者の皆様へ

開催方法：Web開催：ZoomによるLive配信（オンデマンド配信はありません）

配信日：2022年7月7日（木）～7月8日（金）

視聴方法：参加費のご入金の確認が取れた皆様に、別途メールで、「Zoom URL」をお送りします。

接続：Zoom URLにアクセスし、「氏名」と「メールアドレス」を入力し、接続してください。

その他：発表者／座長の皆様に対象とした事前接続テストを実施します。シンポジウム前日の7月6日（水）に接続テストができます。時間は午前11時～午後5時までです。なお、詳細は別途メールでお知らせします。

〈PC・ネット環境〉

Zoomアプリ（最新版）の事前インストールと動作確認をお願いします。

《アプリダウンロード》<https://zoom.us/download>

- ・視聴用ブラウザとして、Google Chrome / Microsoft Edge / Firefox / Safariをお勧めします。
- ・できるだけ有線LANのご使用を推奨します。
- ・ネットワークの状況などにより配信が不安定になる場合がございますので、予めご了承ください。
- ・Zoom URLは7月6日（水）～8日（金）まで同じアドレスを使用いたします。

〈参加方法〉

- ・Zoomへ接続の際の「氏名」は、漢字フルネームをお願いします（例：新潟太郎）。
- ・講演中、視聴者はマイク、カメラをオフにしてください。
- ・質問の際は、まずZoomのリアクション機能の「手を挙げる」を用いてください。指名された方は、マイクとカメラをオンにし、「所属」と「氏名」を述べてから、ご質問ください（質問者の選定は座長に一任します）。
- ・視聴を終了する際は画面右下の退出ボタンを押してください。
- ・初日の7日（木）の講演終了後、Spatial Chat (<https://spatial.chat/>) を用いた自由討論会を予定しています。参加のためのURLは別途メールでご案内いたします。

〈留意事項〉

- ・サイト内に掲載されている全てのコンテンツの無断撮影、録画、録音、閲覧端末のスクリーンショット機能等を用いた記録や保存、ダウンロード、他サイトへの転載等は、かたく禁止します。
- ・第三者へのID、パスワード、視聴用URLの譲渡・共有は禁止します。
- ・運営上の理由から、事務局でレコーディングをさせていただきますのでご了承ください。
- ・参加者の個人情報、第35回インフルエンザ研究者交流の会シンポジウムの運営のみに利用し、他の目的に転用することはありません。

【お問い合わせ先】

第35回インフルエンザ研究者交流の会シンポジウム事務局

新潟大学大学院 医歯学総合研究科 国際保健学分野内

〒951-8510 新潟県新潟市中央区旭町通1-757

TEL：025-227-2127

E-mail：influenza35@med.niigata-u.ac.jp

日 程 表

第1日目 7月7日(木)

13:00~13:05 **開会式**

13:05~13:50 **一般演題1 『ワクチン』**

座長:信澤 枝里 (国立感染症研究所)

13:05~13:20 **インフルエンザワクチンの抗体誘導と感染防御効果**

中田 渚 ほか (デンカ株式会社 ワクチン・試薬開発部)

13:20~13:35 **全粒子不活化A型インフルエンザウイルスに対するポリミキシンBの粘膜アジュバント作用**

小田切 崇 ほか (岩手医大 微生物)

13:35~13:50 **皮内投与型不活化全粒子インフルエンザワクチン**

神田明日美 ほか (デンカ株式会社 ワクチン・試薬開発部)

13:50~14:00 休 憩

14:00~15:30 **シンポジウム1**

『AMED海外拠点におけるウイルス性疾患への取り組み』

座長:渡部 久実 (新潟大学 ミャンマー感染症研究拠点)

14:00~14:30 **ベトナム拠点での活動(デング熱、その他)**

長谷部 太 (長崎大学 熱帯医学研究所)

14:30~15:00 **北大ザンビア拠点における人獣共通感染症克服への取り組み**

澤 洋文 ほか (北海道大学 人獣共通感染症国際共同研究所)

15:00~15:30 **ミャンマーにおける小児のウイルス性急性呼吸器感染症**

齋藤 昭彦 (新潟大学大学院 医歯学総合研究科 小児科学分野)

15:30~15:45 休 憩

第1日目 7月7日(木)

15:45~17:00 一般演題2 『疫学』

座長:高下 恵美 (国立感染症研究所)
杉田 繁夫 (競走馬総合研究所)

15:45~16:00 宮城県で2006年から2020年に分離されたC型インフルエンザウイルスの臨床的・疫学的検討

松寄 葉子 ほか (山形大医 ほか)

16:00~16:15 季節性インフルエンザの減少は、新型コロナ流行下の公衆衛生的介入と関連している

我妻 奎太 (新潟大学大学院 医歯学総合研究科 国際保健学分野)

16:15~16:30 2021/22シーズンに横浜市で分離したAH3インフルエンザウイルスの解析

川上 千春 ほか (横浜市衛研 ほか)

16:30~16:45 Epidemiology and Genetic Analysis of SARS-CoV-2 in Myanmar during the Community Outbreaks in 2020

Wint Wint Phyu ほか

(Division of International Health, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata University, Niigata, Japan ほか)

16:45~17:00 COVID19の変異の変遷に伴う臨床像の変化
ーインフルエンザとの比較もふくめー

廣津 伸夫 (廣津医院)

17:00~18:00 Spatial Chatによる自由討論会

(終了後 幹事会)

第2日目 7月8日(金)

- 9:00~11:45 **シンポジウム2**
『COVID-19をめぐる話題と高病原性鳥インフルエンザの現状』
座長: 齋藤 玲子 (新潟大学大学院国際保健学分野)
渡邊 真治 (国立感染症研究所)
- 9:00~9:30 **新型コロナウイルスを含むコロナウイルスの遺伝子操作系とコロナウイルスの複製**
神谷 亘 (群馬大学大学院 医学系研究科 生体防御学分野)
- 9:30~10:00 **SARS-CoV-2に対する免疫の特性**
高橋 宜聖 (国立感染症研究所 治療薬・ワクチン開発研究センター)
- 10:00~10:30 **新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の疫学的特徴と公衆衛生対策**
押谷 仁 (東北大学大学院医学系研究科 微生物学分野)
- 10:30~10:45 休 憩
- 10:45~11:15 **コロナウイルスに対する新規薬剤開発**
佐藤 彰彦
(北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター シオノギ抗ウイルス薬研究部門、塩野義製薬 創薬疾患研究所)
- 11:15~11:45 **高病原性鳥インフルエンザウイルスの国内外における感染一鳥および哺乳動物への感染事例から**
迫田 義博 (北海道大学大学院 獣医学研究院)
- 11:45~12:00 **総合討論**
- 12:00~13:00 休 憩

第2日目 7月8日(金)

- 13:00~14:15 **一般演題3 『感染伝播メカニズム』**
座長:渡辺登喜子 (大阪大学 微生物学研究所)
鈴木 善幸 (名古屋市立大学)
- 13:00~13:15 **SARS-CoV-2が種の壁を越えるメカニズムの解析**
新田 友香 ほか (東大医科研 ウイルス学)
- 13:15~13:30 **Low possibility of influenza virus transmission via fomites: Laboratory and field study of respiratory masks and environmental surfaces**
FAN YUXUAN (東北大学)
- 13:30~13:45 **2021年度家禽発生高病原性鳥インフルエンザウイルスの鶏に対する感染性と伝播性**
高館 佳弘 ほか (農研機構動衛研 ほか)
- 13:45~14:00 **HEPA及びEPAフィルタ装着循環ろ過式空気清浄機の空間ウイルス濃度低減効果の比較**
西村 秀一 ほか (仙台医療センター・ウイルスセンター ほか)
- 14:00~14:15 **キタキツネおよびタヌキからのH5N1亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスの分離**
日尾野隆大 ほか (北海道大学大学院 獣医学研究院 ほか)
- 14:15~14:30 休 憩
- 14:30~15:00 **総 会**
- 15:00~15:15 休 憩

第2日目 7月8日(金)

- 15:15~16:15 **一般演題4 『基礎研究・抗ウイルス薬』**
座長:左 一八 (会津大学 短期大学部)
村木 靖 (岩手医科大学 医学部)
- 15:15~15:30 C型インフルエンザウイルスの増殖に関わるCM2タンパク質の細胞質領域のアミノ酸配列
下平 義隆 ほか (山形大学 医学部 感染症学 ほか)
- 15:30~15:45 Pin1阻害剤のSARS-CoV-2に対する有効性とその作用機構の解明
坂口 剛正 ほか (広大医 ウイルス学 ほか)
- 15:45~16:00 SARS-CoV-2の感染および感染拡大における宿主シアル酸含有糖鎖の重要な役割
鈴木 康夫 ほか (静岡県立大学薬学部 ほか)
- 16:00~16:15 インフルエンザワクチン接種者におけるインフルエンザBウイルスに対する抗体
木須 友子 ほか (国立病院機構岩手病院 ほか)
- 16:15~16:30 **閉会式**

シンポジスト・発表者・座長の皆様へ

【共通のご案内】

- 1) シンポジウム前日の7月6日（水）に接続テストができます。
時間は午前11時～午後5時までです。
- 2) 参加者の皆様にはZoom URLを別途メールでお送りします。このZoom URLは7月6日（水）の接続テスト及び7日（木）～8日（金）のシンポジウム終了まで同じアドレスを使用いたします。
- 3) ご担当のセッションが始まる直前の休憩時間中にログインし、マイクとカメラをオフ（ミュート）の状態にして、スタンバイしてください。
- 4) セッション開始までの時間が限られていますので、ご協力をお願いいたします。
- 5) 発表時間・討論時間を遵守いただき、円滑なプログラム進行にご協力をお願いいたします。
- 6) 発表時間の計時は事務局が行います。

【シンポジスト・発表者の皆様へ】

- 1) 発表スライドの中で、利益相反（COI）開示をお願いします。
- 2) シンポジウムは、一題30分（発表20分、質疑応答10分）です。
- 3) 一般演題は、一演題15分（発表10分、質疑応答5分）です。
- 4) セッション開始の際は、座長の指示に従って、マイクとカメラをオンにしてください。
座長からの紹介後に、画面共有機能をオンにして発表を開始してください。
- 5) PowerPointをご使用の際は、ポインター機能のご利用を推奨します。
- 6) 発表が終わりましたら画面共有機能を解除してください。次に質疑応答に移ります。
- 7) 質疑応答は口頭で行います。ご回答の際にはご自身のマイクをオンにしてお答えください。

【座長の皆様へ】

- 1) セッション開始の際は、司会者（事務局）の指示に従って、マイクとカメラをオンにしてください。
- 2) 発表が終わりましたら質疑応答にうつります。質問は「手を挙げる」機能で受け付け、口頭で行います。
- 3) 質問者の選定は座長に一任します。挙手している方のお名前を読み上げ、指名してください。
- 4) 担当のセッション開始の際は「氏名」を「座長 漢字フルネーム」に変更してください。
(例：座長 新潟太郎)
担当のセッションが終了したら「氏名」を元に戻してください。

【注意事項】

- ・著作権のある資料、商標、肖像権またはその他の財産権を、その財産権の所有者から事前に書面にて同意を得ることなく、掲示、変更、流通または再生しないようにしてください。
- ・引用については引用元を明記してください。
- ・個人を特定できる、氏名、年齢、ID、手術日などの情報の保護に注意してください。
- ・配信画面の録画、静止画記録、録音を一切禁止いたします。
- ・第三者へのID、パスワード、視聴用URLの譲渡・共有は禁止いたします。これに関わるトラブルが発生した場合、本会では責任を負いかねます。
- ・本会での発表に要する通信料は、発表者の自己負担といたします。

「ミャンマーにおける小児のウイルス性急性呼吸器感染症」

齋藤 昭彦

(新潟大学大学院 医歯学総合研究科 小児科学分野)

我々は、2017年-2019年において、ミャンマーのヤンキン小児病院における小児（1か月-12歳）の570例の小児の急性呼吸器感染症入院例について検討した。年齢の中央値は8か月で、主な症状は咳と呼吸困難、徴候は多呼吸、陥没呼吸であった。計16のウイルスが88%の患者から検出され、RSウイルス-B（RSV-B）（36%）とヒトライノウイルス（HRV）（28%）が最も多く検出された。また、37%で複数のウイルスが検出された。その内、重症の急性下気道感染症（SARI）は19%、死亡率は5%でインフルエンザAが29%、RSV-Bが21%から検出され、予後不良であることが明確となった。

memo

「SARS-CoV-2に対する免疫の特性」

高橋 宜聖

(国立感染症研究所 治療薬・ワクチン開発研究センター)

SARS-CoV-2ウイルスの発生以降、感染者やワクチン接種者を対象としたヒト免疫研究が驚異的なスピードで進められてきた。一つの感染症に対するヒト免疫応答がこれほどまで多くの研究者によって解析された例はなく、従来の概念を覆すような新しい知見が蓄積されつつある。加えて、抗体逃避能を有する変異株の出現により、ウイルスの変異に適応する免疫戦略の存在が明らかになりつつある。本発表では、SARS-CoV-2ウイルスと免疫の攻防からみえてきた新たな免疫の特性を中心に解説する。

memo

「コロナウイルスに対する新規薬剤開発」

佐藤 彰彦

(北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター シオノギ抗ウイルス薬研究部門、
塩野義製薬 創薬疾患研究所)

コロナウイルス感染症COVID-19は、現在も世界中で蔓延しており、そのワクチン・治療薬を創ることは急務である。塩野義製薬では、HIV、インフルエンザウイルス等の治療薬の開発に成功しており、この長年の抗ウイルス薬創薬研究のノウハウを活かして、北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所と共同で、コロナウイルスに対する薬剤研究を実施中である。国内では、既にポリメラーゼ阻害剤Remdesivir、プロテアーゼ阻害剤Paxlovidが市販されており、この講演では、世界の薬剤開発の現状を中心に紹介したい。

memo

1-1.

インフルエンザワクチンの抗体誘導と感染防御効果

○中田 渚、三股亮太郎

(デンカ株式会社 ワクチン・試薬開発部)

ワクチンの有効性は、EMAのガイドラインで血清の抗体価で規定されているが、粘膜で増殖するウイルスに対して血清の抗体が防御活性を示す機序は明らかではない。我々はこの機序を明らかにすべく研究に取り組んだ。

1-2.

全粒子不活化A型インフルエンザウイルスに対するポリミキシンBの粘膜アジュバント作用

○小田切 崇、吉野 直人、木村 将大、村木 靖

(岩手医大 微生物)

我々は抗菌薬であるポリミキシンB (PMB) に粘膜アジュバント作用があることを見出した。今回、PMBが全粒子不活化インフルエンザウイルス抗原に対してもアジュバント作用を有するかを検討した。

1-3. 皮内投与型不活化全粒子インフルエンザワクチン

○神田明日美、谷 翼、三股亮太郎

(デンカ株式会社 ライファイノベーション部門 ワクチン・試薬開発部)

古くから皮内投与では少ない量で高い免疫を誘導し、誘導する免疫も多様であることが知られている。我々は、免疫誘導に優れた皮内に免疫原性の高い不活化全粒子ワクチンを投与して、その免疫誘導を詳細に評価した。

2-1.

宮城県で2006年から2020年に分離されたC型インフルエンザウイルスの臨床的・疫学的検討

○松壽 葉子¹、西村 秀一²、大宮 卓²、太田 玲子²、渡邊 王志²、
北井 優貴²、門脇 葉子¹、下平 義隆¹

(¹山形大医、²仙台医療センター)

15年間に分離できた60株を対象にした。生後24日から6歳まで、入院は2歳未満児の肺炎によるものが多かった。隔年で流行し、サンパウロ系統株の流行が続いたが、2014年に抗原変異と遺伝子再集合を認めた。

2-2.

季節性インフルエンザの減少は、新型コロナ流行下の公衆衛生的介入と関連している

○我妻 奎太

(新潟大学大学院 医歯学総合研究科 国際保健学分野)

新型コロナの流行が始まって以来、ほとんどの国で、渡航制限・社会的距離・学校や職場の閉鎖・マスク着用・手指衛生の強化などの公衆衛生的介入（NPIs）により、季節性インフルエンザウイルスの循環が歴史的に低下している。本発表では、日本におけるいくつかのNPIを取り上げ、これらNPIがどのようにインフルエンザの活動に影響を与えたか、標準的な時系列統計モデルを用いた定量化を含めて、概説を試みる。今後、旅行や移動の制限解除、公衆衛生対策の緩和に起因して、インフルエンザが国内に持ち込まれる可能性は高く、将来の流行動態の変動を理解する上で重要な情報となり得る。

2-3.

2021/22シーズンに横浜市で分離したAH3インフルエンザウイルスの解析

○川上 千春¹、清水 耕平¹、小澤 広規¹、宇宿 秀三¹、大久保一郎¹、
高下 恵美²、藤崎誠一郎²、岸田 典子²、中村 一哉²、渡邊 真治²

(¹横浜市衛研、²感染研 インフルエンザ・呼吸器系ウイルス研究センター)

2021年12月に海外渡航歴（ブラジル、イギリス、アメリカ）のある3名の患者からAH3インフルエンザウイルスを分離した。HA系統樹解析では3C.2a1b.2a2（Y159N、T160I、L164Q、G186D、D190N）に属し、アミノ酸変異の蓄積がみられた。

2-4.

Epidemiology and Genetic Analysis of SARS-CoV-2 in Myanmar during the Community Outbreaks in 2020

○Wint Wint Phyu¹, Reiko Saito^{1,2}, Keita Wagatsuma¹, Takashi Abe³,
Sekizuka Tsuyoshi⁴, Kuroda Makoto⁴, Irina Chon^{1,2}, Shinji Watanabe⁵,
Hideki Hasegawa⁵, Hisami Watanabe²

(¹Division of International Health, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata University, Niigata, Japan,

²Infectious Diseases Research Center of Niigata University in Myanmar, Niigata University, Niigata, Japan

³Division of Bioinformatics, Graduate School of Science and Technology, Niigata University, ⁴Pathogen Genomics Center, National Institute of Infectious Diseases, Tokyo, Japan, ⁵Influenza and Other Respiratory Virus Research Center, National Institute of Infectious Diseases)

We aimed to analyze the situation of the first two epidemic waves of COVID-19 in Myanmar from March 23 to December 31, 2020.

2-5.

COVID19の変異の変遷に伴う臨床像の変化 ーインフルエンザとの比較もふくめー

○廣津 伸夫

(廣津医院)

2020年7月から2022年6月までを、1期（武漢株～ α 株、228人）、2期（ δ 株、285人）、3期（ θ 株、1556人）に分け、それぞれの、症状、PCRのCt値、白血球及びその分画、家族内感染、ワクチン効果等を比較検討した。

3-1.

SARS-CoV-2が種の壁を越えるメカニズムの解析

○新田 友香、西本 萌恵、有光 典子、森山 美優、一戸 猛志

(東大医科研 ウイルス学)

SARS-CoV-2は種の壁を越えてヒトに感染するに至る分子メカニズムは不明である。そこで本研究ではSARS-CoV-2ヒト分離株がマウスに異種間伝播する条件を検討した。

3-2

Low possibility of influenza virus transmission via fomites: Laboratory and field study of respiratory masks and environmental surfaces

○FAN YUXUAN

(東北大学)

3-3.

2021年度家禽発生高病原性鳥インフルエンザウイルスの鶏に対する感染性と伝播性

○高館 佳弘¹、常國 良太¹、熊谷 飛鳥¹、菊谷 祐斗²、佐久間咲希¹、
峯 淳貴¹、宮澤光太郎¹、内田 裕子¹

(¹農研機構動衛研、²農水省動薬検)

2021年度日本国内において、家禽での発生を引き起こしたH5N8亜型とH5N1亜型の高病原性鳥インフルエンザウイルスの鶏に対する感染性と伝播性について報告する。

3-4

HEPA及びEPAフィルタ装着循環ろ過式空気清浄機の空間ウイルス濃度低減効果の比較

○西村 秀一¹、大野 誠司²

(¹仙台医療センター・ウイルスセンター、²東北大工)

エアロゾル感染のリスク削減のための空気清浄機に搭載するフィルター。実用上本当にHEPAが必要か？
HEPA神話を正す。

3-5.

キタキツネおよびタヌキからのH5N1亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスの分離

○日尾野隆大¹、小林 大樹¹、小林 篤史¹、鈴木 玲海¹、佐竹 優樹¹、
松野 啓太²、佐鹿万里子¹、伴 日向子¹、原田 里桜¹、小林 茉弥¹、
青島 圭佑¹、高谷 文仁³、富士田裕子³、磯田 典和¹、木村 享史¹、
迫田 義博¹

(¹北大 獣医、²北大 人獣研、³北大 SFC)

2022年4月、我々は死亡したキタキツネおよび極度に衰弱したタヌキからH5N1亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスを検出した。これら動物の病理学的所見と分離ウイルスの性状を解析したので報告する。

4-1.

C型インフルエンザウイルスの増殖に関わるCM2タンパク質の細胞質領域のアミノ酸配列

○下平 義隆¹、菅原 勘悦¹、松寿 葉子¹、邵 力²、村木 靖³、
後藤 崇成¹、本郷 誠治¹

(¹山形大学 医学部 感染症学、²山形大学大学院 医学系研究科 公衆衛生学・衛生学、³岩手医科大学 微生物学講座 感染症学・免疫学分野)

C型インフルエンザウイルスのCM2 (115アミノ酸) の細胞質領域のアミノ酸配列 (47-48、67-69、73-75、85-87位) に変異を導入し、ウイルス増殖や増殖過程に及ぼす影響を解析した。

4-2.

Pin1阻害剤のSARS-CoV-2に対する有効性とその作用機構の解明

○坂口 剛正¹、黒瀬美羽子¹、神名 麻智²、浅野知一郎²、岡部 隆義³、
伊藤 久央⁴、Jeffrey Encinas⁵

(¹広大医 ウイルス学、²広大医 医化学、³東大 創薬機構、⁴東京薬大 生命科学、⁵アメニス・バイオサイエンス)

Pin1はプロリン異性化酵素であり、生体内で多くのタンパク質の機能調節に関与している。Pin1阻害剤によりSARS-CoV-2の増殖が強く阻害されることがわかった。その作用機構の解明を目指す。

4-3.

SARS-CoV-2の感染および感染拡大における宿主シアル酸含有糖鎖の重要な役割

○鈴木 康夫¹、佐宗 若奈^{2,3,4}、山崎 雅子^{2,5}、中北 慎一⁶、福士 秀悦⁷、土本 佳奈⁸、渡邊 則幸²、Nongluk Sriwilaijaroen^{9,1}、蟹江 治¹⁰、村松 正道²、高橋 宜聖⁸、俣野 哲朗^{3,4}、竹田 誠¹¹、渡士 幸一^{2,5,8}

(¹静岡県立大学薬学部、²国立感染症研究所ウイルス第2部、³東京大学医科学研究所、⁴国立感染症研究所エイズ研究センター、⁵東京理科大学理工学部応用生物科学科、⁶香川大・医・総合生命、⁷国立感染症研究所ウイルス第1部、⁸国立感染症研究所治療薬・ワクチン開発研究センター、⁹Faculty of Med. Thammasat University (タマサート大学医学部)、¹⁰東海大学・工・生物工学、¹¹国立感染症研究所ウイルス第3部)

SARS-CoV-2は、感染力が強く、2022年6月8日までに約5億3300万人の感染者が確認され、630万人以上の死者が出ている。一方、SARSは、SARS-CoVによって引き起こされるウイルス性の呼吸器疾患であり、2002年~2003年にかけて、アウトブレイクした。SARS-CoV-2およびSARS-CoVはいずれも同じACE2をレセプターとし、ゲノム配列の相同性は、79.6%であり、遺伝的な関連がある。SARS-CoV感染者は、8,000人強、死者も800人強であり、SARS-CoV-2とは、大きな差異がある。しかし、SARS-CoV-2とSARS-CoVのウイルス学的特性の違いを説明する分子的基盤の解明は、充分ではない。

我々は、SARS-CoV-2の効率的な感染拡大には、宿主の2-6結合シアロ糖鎖が重要な役割を果たしている可能性を見出した。一方、SARS-CoVには、このような性質は見出されなかった。ヒト間で流行するインフルエンザウイルスは、ヒト呼吸器に存在する2-6結合シアロ糖鎖に結合し、世界的な感染拡大を起こす。我々は、1) SARS-CoV-2の感染は、Vero/TMPRSS2細胞において2-6結合シアル酸含有糖鎖化合物によって有意に抑制されるが、2-3アナログでは抑制効果が弱いこと、2) 2-6結合化合物は、SARS-CoV-2スパイクS1サブユニットに結合し、SARS-CoV-2の細胞への接着を阻害すること、3) 細胞表面のシアル酸をシアリダーゼで除去するとSARS-CoV-2スパイクとACE2との相互作用が減弱することなどを明らかにした。

本研究は、SARS-CoV-2感染のあらたな分子基盤を提供し、SARS-CoV-2がSARS-CoVを凌いで、急速に感染拡大した分子基盤の一端を明らかにするものである。

4-4.

インフルエンザワクチン接種者におけるインフルエンザ B ウィルスに対する抗体

○木須 友子¹、西村 秀一²

(¹国立病院機構岩手病院、²国立病院機構仙台医療センター ウィルスセンター)

インフルエンザ研究者交流の会 会則

第1章 総則

- 第1条 本会は、インフルエンザ研究者交流の会（英語名：The Japanese Society for the Control of Influenza）と称する。
- 第2条 本会は事務局を設置し、事務局長の所属機関に置く。
- 第3条 本会は、国内のインフルエンザ研究者がインフルエンザ制圧に関する基礎研究、臨床研究、行政上の課題等について情報交換、発表、討論を行い、それを通してインフルエンザの制圧に貢献することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。
学術集会（シンポジウム）、講演会、研究会等の開催
メーリングリストによる会員間での情報交換
その他本会の目的を達成するため必要な事業

第2章 会員および役員

- 第5条 (1)本会の会員は、国内のインフルエンザ研究者、医師および医療関係者で、本会の目的に賛同した者とする。
(2)本会に入会しようとする者は、学術集会等に出席し所定の手続きを行う。
(3)会員は学術集会等の出席時に、別に定める会費を納入する。
- 第6条 本会には次の役員を置く。
会長 1名
事務局長 1名
事務局補佐 若干名
監事 1名
- 第7条 役員は総会において選出する。任期は1年とするが再任は妨げない。
- 第8条 会長は、学術集会を開催し、その会務を総括する。事務局長は本会の事業に必要な会員名簿とホームページの管理、学術集会の運営補助などを任務とする。事務局補佐は事務局長の任務を補佐する。
- 第9条 監事は会務を監査する。監事は会員から選任し、会長と事務局は監事になることはできない。

第3章 学術集会および総会

- 第10条 学術集会（シンポジウム）は原則的に年1回とし、一般演題と特別講演で構成する。
- 第11条 総会は学術集会開催中に持たれ、次回の役員を選出する。
- 第12条 事務局は、次回の会長候補を総会に推挙する。

第4章 会計

- 第13条 本会の会計は会費、賛助金その他の収入をもってあてる。
- 第14条 会費の額は事務局が提案し総会の承認を得て設定される。
- 第15条 会長と事務局長はそれぞれ学術集会と事務局の会計をまとめ、監事による監査を受ける。

第5章 会則の変更

- 第16条 会則は総会の議決を経て変更することができる。

附則

1. 本会は1986年4月1日に設立され、本会則はこの日に制定された。
2. 本会則は2018年11月14日に改訂され、この日から適用する。

インフルエンザ研究者交流の会シンポジウム 開催記録

| | 開催年月 | 会 長 | 開催地 | 会 場 | 備 考 |
|----|----------|-------|---------|----------------|------------------|
| 1 | 1986年3月 | 大谷 明 | 静岡県熱海市 | 厚生年金 岩間荘 | |
| 2 | 1987年3月 | 加地 正郎 | 静岡県熱海市 | 厚生年金 岩間荘 | |
| 3 | 1988年3月 | 加地 正郎 | 大分県湯布院町 | 湯布院ハイソ | |
| 4 | 1989年3月 | 杉浦 昭 | 静岡県熱海市 | | |
| 5 | 1990年5月 | 本間 守男 | 兵庫県神戸市 | 神戸セミナーハウス | |
| 6 | 1991年5月 | 本間 守男 | 兵庫県神戸市 | 神戸セミナーハウス | |
| 7 | 1992年10月 | 保坂 康弘 | 大阪府吹田市 | オオサカ サンパレス | |
| 8 | 1993年4月 | 前野幸一郎 | 愛知県名古屋市 | 愛知県医師会館 | |
| 9 | 1994年4月 | 飛田 清毅 | 栃木県塩原町 | ホテルニュー塩原 | |
| 10 | 1995年4月 | 武内 可尚 | 神奈川県横浜市 | メルパルク横浜 | |
| 11 | 1996年4月 | 中村喜代人 | 山形県山形市 | ホテル樹林 | |
| 12 | 1997年3月 | 中島 捷久 | 愛知県刈谷市 | NTT 東海セミナーセンター | |
| 13 | 1998年2月 | 喜田 宏 | 北海道倶知安町 | ニセコプリンスホテル | |
| 14 | 1999年2月 | 清水 一史 | 新潟県南魚沼市 | 日本大学八海山研修所 | |
| 15 | 2000年4月 | 鈴木 康夫 | 静岡県三島市 | 東レ総合研修センター | |
| 16 | 2001年1月 | 根路銘国昭 | 沖縄県本部町 | マリソピアザオキナワ | 日米合同フォーラム |
| 17 | 2002年4月 | 奥野 良信 | 兵庫県東浦町 | 淡路夢舞台国際会議場 | |
| 18 | 2003年10月 | 中島 捷久 | 沖縄県名護市 | 万国津梁館 | Option V と同時開催 |
| 19 | 2005年3月 | 大内 正信 | 岡山県倉敷市 | 倉敷アイビースクエア | |
| 20 | 2006年3月 | 西村 秀一 | 宮城県富谷町 | ユアテック人材開発センター | |
| 21 | 2007年5月 | 菅谷 憲夫 | 神奈川県横浜市 | パシフィコ横浜 | 日本インドネシア合同シンポジウム |
| 22 | 2008年5月 | 河岡 義裕 | 東京都港区 | 東大医科研 | |
| — | 2008年7月 | 西村 秀一 | 東京都港区 | 日本大学医学部（板橋） | 緊急シンポジウム |
| 23 | 2009年7月 | 西村 秀一 | 東京都港区 | 東大医科研 | |
| 24 | 2010年7月 | 西村 秀一 | 長野県軽井沢町 | 日本大学軽井沢研修所 | |
| 25 | 2011年6月 | 田代 真人 | 富山県富山市 | 富山国際会議場 | |
| 26 | 2012年5月 | 高橋 和郎 | 福島県北塩原村 | 裏磐梯猫魔ホテル | |
| 27 | 2013年6月 | 喜田 宏 | 北海道札幌市 | 北大獣医学研究科 | |
| 28 | 2014年7月 | 伊藤 壽啓 | 鳥取県鳥取市 | 鳥取市総合福祉センター | |
| 29 | 2015年5月 | 三田村敬子 | 東京都港区 | 東大医科研 | |
| 30 | 2016年6月 | 本郷 誠治 | 山形県山形市 | 山形市保健センター | |
| 31 | 2017年6月 | 鈴木 隆 | 静岡県静岡市 | 静岡市産学交流センター | |
| 32 | 2018年6月 | 藤井 豊 | 香川県高松市 | サンポートホール高松 | |
| 33 | 2019年6月 | 中屋 隆明 | 京都府京都市 | 京都府立医科大学 | |
| 34 | 2021年7月 | 村木 靖 | 岩手県矢巾町 | 岩手医科大学 | Web開催 |
| 35 | 2022年7月 | 齋藤 玲子 | 新潟県新潟市 | 新潟大学医学部 | Web開催 |

Life and Technologies

優れた想像力、
限りない探究心で
果敢なチャレンジ



主要営業品目

- ライフサイエンス関連試薬・機器
- 環境計測機器・分析装置
- 自動化・省エネ関連機器
- 理化学機器・消耗品
- 試験研究用試薬
- 工業薬品・資材
- 工業計測器
- 真空装置
- 光学機器
- 設備全般
- 試験器
- 測定器

人にやさしいテクノロジーをテーマに21世紀を見つめ
たゆまぬ努力を重ねてまいります。

- 医薬品
- 医療材料
- 医療機器
- 病院設備
- 臨床検査
- 検査システム
- 画像関連機器
- ネットビジネス
- フィールドサービス

AZ SCIENCE **アズサイエンス株式会社**
AZ Science Co., Ltd

<https://azscience.jp/>



□ 松本本社：〒399-8754 長野県松本市村井町西2-3-35 TEL(0263)58-0021 FAX(0263)58-8786
□ 東京本社：〒135-0014 東京都江東区石島2-14 lmasRiverside2F TEL(03)5843-8155 FAX(03)5843-8153

東京・西東京・横浜・埼玉・千葉・宇都宮・高崎・つくば・水戸・仙台・山形・秋田・新潟・長野・松本・甲府・大阪・名古屋・金沢・静岡・御殿場・小田原

いのちの輝きに、
Denkaができること。

生物由来製品 劇薬 処方箋医薬品^(注) ウイルスワクチン類
日本薬局方 インフルエンザHAワクチン 薬価基準未収載

インフルエンザHAワクチン「生研」

注) 注意－医師等の処方箋により使用すること

● 効能又は効果、用法及び用量、接種不適合者を含む接種上の注意等
につきましては、添付文書をご参照ください。

できるをつくる。

Denka

製造販売元
デンカ株式会社
新潟県五泉市木越字鏡田 1359-1

お問い合わせ先(資料請求先)
デンカ株式会社 ワクチン学術担当
東京都中央区日本橋室町2-1-1 日本橋三井タワー ☎0120-206-071

2020年6月作成 VAC-2020-0008-2



広告・協賛

アズサイエンス株式会社

デンカ株式会社

新潟市医師会

一般財団法人 協和会

印刷・Web 配信協力

株式会社 第一印刷所

(<https://www.dip.co.jp/>)

株式会社 サウンドエイト

(<https://www.soundeight.net>)

本シンポジウムの趣旨にご賛同とご理解を賜り、
ご支援をくださいました皆様に会員を代表して
厚く御礼申し上げます。

海・川・土の恵み 新潟



©新潟観光コンベンション協会

インフルエンザ研究者交流の会

<http://www.jsci-influenza.org/>

第35回インフルエンザ研究者交流の会シンポジウム プログラム

第35回インフルエンザ研究者交流の会シンポジウム事務局

新潟大学大学院・医歯学総合研究科 国際保健学分野内
〒951-8510 新潟市中央区旭町通1-757
